


読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 小塚 昌弘
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.636

- ★「若い人に贈る読書のすすめ」掲載図書決定(2頁)
- ★「全国優良読書グループ」表彰団体決定(3頁)



読書の入り口

「若い人に贈る読書のすすめ」によせて

株式会社 N H K 出版
 編集者
白川貴浩
しらかわたかひろ

「本」はその時代ごとの欲求を表す、とよく言われます。たとえば、戦後は「活字欲」により文学全集が飛ぶように売れ、情報社会が発展したゼロ年代には、「情報欲」により情報をコンパクトにまとめた新書に勢いがありました。では、現代ではどうか。いま、人は生きるための「知恵」を欲しているのではないかと、特に「若い人」がいろんな「知恵」を欲していることを実感します。いつ、なにが起きるかわからない現代で、しっかりと自分なりの人生を生き抜いていくための「武器」を手に入れたい。人が本に求めるものは、このように変化してきている気がします。そんな「武器」を手に入れ

るために、若い人をはじめだれもが気軽に読書を始めることのできるシリーズがあります。それが『学びのきほん』とNHKテキスト『100分de名著』です。『学びのきほん』は、「哲学」から「落語」まで、1冊1テーマの教養の「入り口」に立つことを目標に、2時間で読めることができるシリーズです。本の巻末には豊富なブックガイドが付いており、本書を入り口として、学びの深い森へ進むための道案内にもなります。

一方、『100分de名著』は少し違った読書体験ができるシリーズです。古今東西で読まれ続けてきた1冊の名著を、計100分の番組とテキストで理解していく本シリーズは、創刊から10年目を迎えました。番組を観ながら、わからなかったところは本を読んで深める。もしくは、先に本で予習をしてから番組でその内容を深めていく。テレビ番組と本を掛けあわせた学び方は、本シリーズならではの魅力です。

このふたつのシリーズで共通しているのが、コンパクトであること。どちらも100ページ程度で、時間をかけずに読書が楽しめます。読書の醍醐味のひとつに「1冊の本を讀み切る」ことがあるでしょう。読書に慣れていなくても、まずはコンパクトな本を読み切ることで読書に自信が付き、自分なりの読書が続けていく糸口になります。

自分なりの読書が続けていき、知恵を身につけていくためにはまず、興味関心に出会う必要があります。そのため本屋さんに行くのでもいいし、ネット書店で「おすすめ本」を買ってみてもいい。尊敬している人の愛読書を読んでもいいし、あえて自分とは馬が合わない人の読んでいる本を紐解いてみるのもいい。ひとくちに「読書」といっても、そこには無限の可能性があつて、誰一人として同じ「読書」をしている人は存在しないのですから。本を読むことは楽しいし、人生を生き抜いていくための「知恵」や「武器」を手に入れるために、こんなにも手軽で身近な媒体は、いまのところ「本」しかありません。そんななかで、まずは読書の入り口として、『学びのきほん』や『100分de名著』を手にとってもらえると、うれしいです。

2021 『若い人に贈る読書のすすめ』実施

公益社団法人読書推進運動協議会・事業委員会は、2021『若い人に贈る読書のすすめ』推薦図書24点を選定しました。

今年も例年どおり、道府県読書推進運動協議会に「若い人にぜひ読んでもらいたい本」の推薦を依頼、39の読進協から計81点の書目の推薦をいただきました。

もともと推薦が多かったのは、池上彰(監修)・佳奈(漫画)・モドロカ(画)の『なぜ僕は働くのか』で、7つの読進協から推薦がありました。

ついで、伊坂幸太郎の『逆ソクラテス』が4つの読進協から推薦がありました。榎本博明の『さみしさの力』、齋藤孝の『未来の自分に出会える古書店』も人気を集めました。

事業委員会の書目選考基準は、①各出版社1点 ②複数県推薦書



③対象読者向きか ④

そのほか各委員が特別に推薦したい書目などを勘案して検討。本年度は新型コロナウィルス感染症対策のため、メールでの投票と意見交換を行い、最終的に委員会全体で24点を確認、決定いたしました。

本年度も、この推薦図書リーフレットを21万部製作、道府県の読進協・都道府県立図書館を通じて各公共図書館に、日本出版取次協会の協力で取次会社を通じて全国の書店に配布を行い、有効に活用していただく予定です。

リーフレットの出来は12月上旬を予定。成人式での利用のため2020年内の受け取りご希望の方は、早めにご連絡ください。卒業式、読書グループ、学校での読書指導、地域の文化活動などのご利用も歓迎です(部数にかぎりがあります)。ご希望の方は公益社団法人読書推進運動協議会事務局までお問い合わせください。

03-5244-5270

e-mail info@dokusyo.or.jp

「若い人に贈る読書のすすめ」リーフレット掲載書名一覧

著者名	書名	定価	出版社
伊坂幸太郎	逆ソクラテス	一五四〇	集英社
有川 ひろ	イマジン?	一七六〇	幻冬舎
大前 粟生	ぬいぐるみとしゃべる人はやさしい	一七六〇	河出書房新社
シシヤ、カトヘタ、もりうちすみ(共著)	ハナコの愛したふたつの国	一七六〇	小学館
五十嵐佳子	金子と裕而	一六五〇	朝日新聞出版
古内 一絵	鐘を鳴らす子供たち	一七六〇	小峰書店
池上彰(監修) 佳奈(漫画)	なぜ僕は働くのか	一六五〇	学研プラス
齋藤 孝	未来の自分に出会える古書店	一五九五	文藝春秋
日本ペンクラブ(編)	泣いたあととは、新しい靴をはこう。	一六五〇	ポプラ社
若松 英輔	14歳の教室	一四三〇	NHK出版
あさのあつこ	ハリネズミは月を見上げる	一五九五	新潮社
光丘 真理	赤毛証明	一四三〇	くもん出版
中野 信子	空気を読む脳	九四六〇	講談社
梨木 香歩	ほんとうのリーダーのみつけかた	一三二〇	岩波書店
榎本 博明	「さみしさの力」孤独と自立の心理学	八三六〇	筑摩書房
名嶋義直(編著)	10代からの批判的思考	二五三〇	明石書店
ヤマザキマリ	たちどまつて考える	九二四〇	中央公論新社
パオロ(イラスト) 飯田亮介(文)	コロナの時代の僕ら	一四三〇	早川書房
齋藤 孝	何のために本を読むのか	一〇四五	青春出版社
山極 寿一	人生で大事なことはみなゴリラから教わった	一四三〇	家の光協会
水野 孝一	人も街も動かす! 巻き込み力	一五四〇	KADOKAWA
末永 幸歩	13歳からのアート思考	一九八〇	ダイヤモンド社
新里卓(編著)	すごいぞ! はたらく知財	一六五〇	晶文社
新里卓(編著)	専門学へのいざない	三〇八〇	成文堂





2020年度・第53回 全国優良読書グループ表彰 ——道府県読進協推薦——

公益社団法人 読書推進運動協

議会で、第74回「読書週間」事業として、11月3日(祝)を中心に、各道府県の読書推進運動協議会を通じて、「第53回全国優良読書グループ(下表)」の表彰を行いました(一部選考中)。

読書グループの結成促進と育成強化は、読書推進運動の根幹をなすものとして、公益社団法人 読書推進運動協議会は結成以來、活動の第一目標とし、道府県各読書推進運動協議会と連携して、その育成・発展に努力を重ねています。

この事業は、各読書推進運動協議会の推薦により、一地域一グループを表彰するもので、原則として5年以上の活動を続けているグループを推薦・表彰の対象としています。

現在、読書グループの活動は、読書会、実演活動、家庭・地域文庫、障がいを持つ方への読書支援、図書館サポートなど、多岐にわたつ

ています。

全国の読書グループに敬意を表

し、数ある読書グループを対象に

ご推薦の労をとられた、各道府県

優良読書グループ名

リーディング倶楽部たんぼぼ

おはなし広場

読書と朗読の集い「本だす会」

紙芝居文化の会みやぎ

古典読書会

おはなし会ふなの実

おはなし会 キャロット

図書館ボランティアとりで

小山子どもの本連絡会

川内読書会

悠遊読書会

おはなしのとびら

上越音声訳マザーテープの会

魚津読書会

しびの会

椎の木読書会

南アルプス市わかき朗読ボランティア

おはなしんぼ

穂高絵本とお話の会

おはなし広場「どんぐり」

読書推進運動協議会のみなさまに、深く感謝いたします。

推薦された優良読書グループ

には、その業績を讃え、公益社団

体

所

所在地

代表者(世話人)名

北海道紋別郡湧別町 小松 初恵

青森県北津軽郡板柳町 北島 千春

岩手県下閉伊郡普代村 金子 美枝

宮城県仙台市 川端 英子

秋田県鹿角市 大里 弘子

山形県西村山郡朝日町 登坂ひかる

福島県東白川郡棚倉町 芳賀 牧子

茨城県取手市 鈴木 武

栃木県小山市 作山 昌子

群馬県桐生市 長谷川 信子

埼玉県春日部市 杉森 賢一

千葉県香取郡神崎町 千葉貴美子

新潟県上越市 齋藤久美子

富山県魚津市 海原 優

石川県七尾市 川口真紀子

福井県坂井市 恩地 精一

山梨県南アルプス市 平間恵美子

長野県安曇野市 竹内 悦子

岐阜県関市 河合 裕子

法人 読書推進運動協議会より賞状および副賞(図書カード2万円分)を、各道府県読書推進運動協議会を通じて贈呈いたしました。各グループの活動状況は、1月号以降、本紙上で逐次紹介していきます。

この優良読書グループ表彰は、1968年 第22回「読書週間」

優良読書グループ名

いずみ読書会

草津おはなし研究会

長岡京おはなしの会ささぶえ

川西市立中央図書館

おはなしボランティアたんぼぼ

ひだかおはなしの会

西伯小学校コミュニティ・スクールどくしょ部

蔵木子ども読書会サクラマス教室

倉敷ストーリーテリングを楽しむ会

(選考中)

音訳サークルッこだま

おはなしひろば「なかよし」

本のちよつとのあ・い・だ

たけのこ文庫

おはなし宅急便

おはなしの会くれよん

読み聞かせボランティアおはなし「くすくす」

おはなしひろば

野尻町読み聞かせグループ「たんぼぼ」

ストーリーテリングの会おはなしの森

与那原町しまくろうボランティアの会

「劇団よなばらのおぼあQ」

から実施しており、本年までの表彰グループ数は1845グループとなります。

なお、副賞の図書カード2万円分のうち1万円分は、例年同様、日本図書普及株式会社の協賛により寄贈されたものです。同社の協力に厚くお礼申しあげます。

所

所在地

代表者(世話人)名

静岡県富士市 山田悠紀子

滋賀県草津市 藤内 郁子

京都府長岡京市 篠田 優美

兵庫県川西市 中西 恭子

和歌山県日高郡日高町 野田 ち代

鳥取県西伯郡南部町 早田 秀子

鳥根県鹿足郡吉賀町 朋澤 公香

岡山県倉敷市 足立早百合

広島県 宮浦 道代

徳島県名西郡石井町 西山 佳子

香川県高松市 近森佐代子

高知県高岡郡四万十町 岡本 礼子

福岡県糸島市 中島 千枝

佐賀県杵島郡大町町 前田美恵子

長崎県雲仙市 松井 絹代

熊本県玉名市 山口美智子

大分県国東市 西原美茂子

宮崎県小林市 鳥羽 啓子

鹿児島県鹿児島市 屋比久澄子

沖縄県島尻郡与那原町

(以上39グループ)

■ねりま地域文庫読書サークル連絡会 50周年記念誌発行

記念講演をまるごと紹介 詳細な年表で読書運動をふり返る

2018年に野間読書推進賞 団体の部を受賞した、ねりま地域文庫読書サークル連絡会（東京都練馬区）が、9月1日(火)、50周年記念誌『地域文庫 その広がりと深まり』を刊行した。

内容は、45周年記念シンポジウム「子どもに本を手わたそう」家庭文庫の現場から、パネリスト

小宮由さん／関日奈子さん／西裕子さん／小松原宏子さん、50周年記念講演会①「子どもになぜよい本が必要か」再び」講師Ⅱ広瀬恒子さん、②「子どもの本にできること」講師Ⅱさくまゆみこさんの講演録と、昨年に練馬区立図書館を巡回して行った展示「ねりまの文庫50年」の紹介が中心となっている。

また、資料として同会のあゆ



表紙は絵：いわさきちひろ
レイアウト：わかやまけん

みと学習会の記録に加え、「練馬区子ども読書活動推進会議の記録」「図書館長との懇談会の記録」会として出した陳情書・パブリックコメントなども収録されており、ボランティアによる自治体の読書推進への働きかけの記録にもなっている。

巻末には、同会と練馬区立図書館のあゆみ、全国の読書運動・社会の動き、その年に出版されたおもな児童書を掲載した詳細な年表が掲載されている。

A4版14ページの本誌は、税込1200円（送料実費）で購入可能。同会が40周年を記念して作った、大澤止雄さん、鳥越信さん、関日奈子さんらによる座談会記録集『ねりまの文庫―40年のあゆみ』も、税込300円で購入できる。注文・問い合わせは同会事務局まで。

●ねりま地域文庫読書サークル連絡会事務局
e-mail

nerimabunko@yahoo.co.jp
03-3977-2381

■高知こどもの図書館開館20周年記念

10年後の未来のために 多彩な平和図書リスト 刊行へ

2006年に野間読書推進賞 奨励賞を受賞した、認定NPO法人高知こどもの図書館（高知県高知市）が、開館20周年を記念して、平和をテーマとした図書を紹介する冊子『へいわごとじぶんごと』を12月に刊行する。

この冊子は、同館が戦後70年を機に2015年に開催し、その後毎年8月に継続して開催してきた企画展「へいわってすてきなね」と、その際に選んできた平和関連の図書リストを発展させたもの。「こどもの本が語る戦争」「こども

の本が語る戦後75年」をテーマに、20代から80代までの人たちが新刊図書も加えながら選んだ「10年後おとなになる君たちへ伝えたい」94冊が、紹介される。

掲載される図書にはまんがも含まれる。第二次世界大戦や原爆をテーマにした作品だけではなく、イラクやアフガニスタンでの戦争を描いたもの、現在も続くシリア内戦などの関連図書も紹介される。また、震災や原発事故、環境問題や多文化共生の観点を描いた作品に加え、政治や社会の仕組みを考えるヒントとなる作品も含まれており、多様な「平和」のあり方、未来へのつなげ方を子どもたちと考えるきっかけとなることが期待される。

高知まんがBASE、横山隆一記念まんが館の協力や、太平洋戦争を経験した人によるコラムを掲載するなど、本と距離のある子どもたちへのアプローチもとらられている。

同館は、コロナ禍により、開館20周年の記念事業を行っていくに

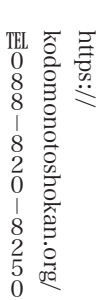
かではあるが、「せめてこれだけは大事に続けたい」と、本年8月も企画展を開催し、冊子の発行を決めたという。

12月の刊行に向け、同館では現在、『へいわごとじぶんごと』の予約を受け付けている。1000部の限定発行で、ページ数は32ページ、価格は税込400円の手定。

詳しくは、同館ホームページを参照、または、直接お問い合わせください。

●高知こどもの図書館
問い合わせ先
https://
kodomonotoshokan.org/
TEL089-8200-8250
089-8200-8251

企画展「へいわってすてきなね」
会場の様子



「へいわごとじぶんごと」表紙
イラストは檜垣文乃さん

■日本子どもの本研究会全国大会 オンライン開催

危機を乗り越え、子どもと子どもの本の未来をひらくために

一般社団法人 日本子どもの本研究会は、10月17日(土)・18日(日)に開催を予定していた全国大会を、感染症対策のため規模を縮小し、オンラインで「第52回 日本子どもの本研究会全国大会 未来をひらく子どもと本へ今、守ること、育むこと、分かちあうこと」として10月18日に開催した。

基調報告「子どもたちに本を手渡すということ 活動の原点から学び、明日につなげる!」は同学会長の代田知子さん。1960年代からの増村王子さん、代田昇さんによる「有・三青少年文庫」での実践を前史とし、1967年より読み聞かせや親子読書会など読書の動機づけの実践・研究を推進してきた同会のあゆみを、熱気あふれる当時の写真と、古田足日さんほか中心となつて活躍した人たちのことばで紹介した。



報告・講座の概要を掲載した大会冊子

代田さんは、自身が勤める三芳町立図書館(埼玉県)のコロナ禍における様子も紹介。緊急事態宣言中は小学生対象にブックトーク動画を配信し、再開後はソーシャルディスタンスに配慮しながらブックスタート、おはなし会などを開催している。「生の声で直接本を手渡すことの力強さを実感した。すべての子どもの身近な場所に本を読んでくれる人、楽しんでくれる人がいる世の中にした」と締めくくった。

続いて、用意されていた10の分科会のうち、「小学生と読書」「中高生の読書」「特別支援と読書」「地域と読書」の4分科会担当者が、取りあげる予定だった実践を報告。当初の報告内容に加え、コロナ禍で浮き彫りになった課題についても言及された。

同会前会長で専修大学教授の野口武悟さんは、2019年度に行つた日本の離島の読書環境調査について、講座「島の読書環境と子どもたち」で紹介。離島の公共

図書館・学校図書館の資料費や蔵書数は、全国平均と比べるとかなり少ないが、それを補うさまざまな努力や工夫がなされていると、北海道礼文町、島根県海士町・隠岐の島町、鹿児島県志布志町、沖縄県久米島町の実践例が、訪問調査時の写真とともに報告された。児童サービスを充実させたり、すべての学校に専任の学校司書が配置されるなど、全国的に見ても先進的な実践も多く、野口さんは「地方の実践をこの研究会で共有したい」「文化、教育にどれだけ力を入れられるかが重要」と語った。

同会では、基調報告・講座の概要と、予定されていた5つの講座・5つの読書会・6つの夜のつどい・10分科会での発表内容、各研究部会の紹介、会員によるコロナ禍のなかでの実践報告と全国大会で話しあいたかつたことが掲載された大会冊子を販売している(税・送料込み500円)。オンライン開催までの流れや検討された点なども記されていて、コロナ禍での記録ともなっている。購入方法など詳細は、同会ホームページを参照。

●日本子どもの本研究会

ホームページ

<https://>

www.jaschhonken.com/

■「図書館総合展」ONLINE

図書館のすべてを網羅したオンラインイベントが開催中!

図書館界全体の交流・情報交換の場として開催されてきた「図書館総合展(主催)図書館総合展運営委員会」が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、今年はオンラインでの開催となった。

第22回にあたる今回は「図書館とともにすすめる まち・教育・情報の未来」と題して、11月1日(日)30日(月)の期間に開催されている。

特設ウェブサイトは「出展団体ページ」「個別イベント紹介ページ」「特集コンテンツ」の3つから構成され、多彩なコンテンツが用意されている。

なかでも4日(水)〜6日(金)の「コ

ア日」にはZoomやYouTubeを活用して、大学・研究機関、出版社・書店、関連企業などによる講演会、フォーラム、研究発表などが数多く行われた。

たとえば、4日に行われた社会福祉法人埼玉福祉会主催のオンラインフォーラム『今だから知りたい! 読書バリアフリー法Q&A』では、講師の専修大学文学部教授・野口武悟さんが、「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」を理解するうえで、ポイントや、成立にいたる経緯などを解説したのち、事前に参加者から出された質問に、自身の取材した現場の事例や最新のデータをもとに、ていねいに答えていた。

参加にはアカウントの登録が必要だが、自宅や職場、地元にいながらにして最新の情報にアクセスでき、図書館と関連業界の現況を一覧するには、格好の機会となっている。

●図書館総合展「ONLINE」

特設サイト

<https://2020.libraryfair.jp/>



公共図書館だけでなく大学・高校などの図書館もオンラインで見学

「若い人に贈る読書のすすめ」
〜2020年リーフレットまでを

ふり返る〜

今年も「若い人に贈る読書のすすめ」の季節がやってきました。

1999年にはじまったこのリーフレット、当初は「成人の日・新社会人となる日を迎えるフレッシュなあなたに」との呼びかけで、対象年齢も20歳以上とじていました。

が、「卒業式で配布したい」「新入生に贈りたい」という大学、高校が増えてきたため、2004年版からは「成人・卒業・新たな一歩を踏み出したフレッシュなあなたに」をキャッチフレーズにしています。

2020年までの掲載図書数は、53冊となっています。

当協議会50年史別冊CD-ROMに収録されている、2010年版までの掲載図書が多い作家は以下のとおりです。

1999年(第1回)〜2010年(第12回) 掲載図書が多い作家

5冊 宮部みゆき
4冊 伊坂幸太郎 瀬尾まいこ、

森絵都 吉本ばなな
3冊 石田衣良、上橋菜穂子、

大平光代、三浦しをん、村上春樹

ベストセラー小説家がずらりと並んでいます。これが、2011年以降になると、様子がだいぶ変わります。

2011年(第13回)〜2020年(第22回) 掲載図書が多い作家

6冊 池上彰
4冊 朝井リョウ、池井戸潤、齋藤孝

3冊 鎌田實、村上春樹、吉本ばなな

社会情勢をていねいに解説し、読み手の判断をうながす池上彰さん、読書やことばの豊かさを紹介する齋藤孝さん、若者たちの姿をリアルに描く朝井リョウさん、逆境からたくましく立ち上がるドラマが魅力の池井戸潤さんの著作が、多く選ばれてきています。村上春樹さん、吉本ばななさんがこの22年間、安定して選ばれているのも印象的です。

池上さんの著作に代表されるように、いまの社会の動きや、国際

関係について考える図書は、毎年掲載されています。とくに、2016年より18歳選挙権が適用されたことから、2017年(第19回)には、「18歳からの民主主義(岩波新書編集部)」「投票に行きたくなる国会の話(政野淳子)」「池上彰の君たちと考えるこれからのこと(池上彰)」「転換期を生きるきみたちへ(内田樹)」と、主権者としての自覚をうながすラインナップとなっています。

「仕事」「働くこと」に関する図書も、このリーフレットでは毎年のように紹介してきました。以前は「プロ論」(Ryō 編集部)、『ふむふむーおしえて、お仕事!』(三浦しをん)など、その道のプロフェッショナルの仕事ぶりややりゆみを紹介したものが多かったのですが、ここ数年は『これを知らずに働けますか?』(竹信三恵子)、『10年後、君に仕事はあるのか?』(藤原和博)、『18歳から考えるワークルール』(道幸哲也ほか)など、職に就くために考えること、ブラック職場から身を守るための知識を扱う図書が目につきます。若い世代の置かれている厳しい現状が伝わります。

2011年以降は、東日本大震災

第二次世界大戦を題材とした図書は、『無言館ノオト』(窪島誠一郎)など、このリーフレットでも多く取りあげてきました。最近では『14歳からの戦争のリアル』(雨宮処凛)、『平和のバトン』(宮狩臣純)などの若い世代による取り組みを紹介する図書が目立ちます。また、『翻訳できない世界のことば』(エラ・フランシス・サンダース)など多文化の豊かさにふれる本、『ふるさとって呼んでもいいですか』(ナデイ)、『ぼくはイエローでホワイトでちよっとブルー』(ブレイディみかこ)など国籍や人種の違いからくる苦労と、それを乗り越えるたくましさを描く本も増えてきており、若い人たちに国際的な視野を持つてほしいという期待を感じます。

2011年以降は、東日本大震災

災害関連図書が11冊、選ばれています。直後の被災地を伝える『3・11心に残る140字の物語』(内藤みか)や、震災と原発事故がもたらした不安感をつづる『あの日からぼくが考えている「正しさ」について』(高橋源一郎)、困難な復興に立ち向かう『紙つなげ!』(佐々涼子)、『デニムさん』(今関信子)、小説では『想像ラジオ』(いとうせいこう)、『持たざる者』(金原ひとみ)と、約10年の間にさまざまな観点から震災をテーマにした作品を紹介しています。コロナ禍の最中での選定となった2021年(第23回)には、さつそく『コロナの時代の僕ら』(パオロ・ジョルダーノ)が入りました。来年以降は、コロナ関連の図書が増えるのかもしれませんが。

読書推進運動協議会では、この春の新型コロナウイルスの感染拡大で、長い春休みを過ごした中学生・高校生へのブックガイドとして使っていたところ、2015年からのリーフレットのPDFを公開してきました。当面のあいだ、公開を続けますので、みなさんも掲載図書・作家の推移を世相とあわせて、展示やブックトークに活用されてはいかがでしょうか?

活用されてはいかがでしょうか?

2018年度全国読書グループ調査 読書グループお名前調査 その5 〜その他部門+α〜

「読書グループお名前調査」5回目は、ひとつの部門にするには数が少ないジャンルのことばや、分類不能なことばを集めた「その他部門」100のことばが対象です。

都道府県名、市区町村名、地域名、施設名をそのまま使ったもの(例えば、虹が丘町読書会、ここ幼稚園ボランティアなど)は除いて集計しています。「虹」と「インボー」、「笑顔」と「スマイル」など、日本語と英語は区別して集計しています。

上位は以下のとおりです。以下、(〜)内はグループ数となります。

- 1位 (135) 「森」
- 2位 (110) 「虹」
- 3位 (78) 「玉手箱」
- 4位 (74) 「おひさま」
- 5位 (71) 「夢」
- 6位 (66) 「ママ」
- 7位 (62) 「スマイル」
- 8位 (48) 「なかよし」
- 9位 (44) 「わくわく」
- 10位 (42) 「いずみ」

次点(41)「ひだまり」

1位は「森」(森のくまさんは除く)。図書館の愛称にも使われている「森」は、子どもの本・一般の本グループどちらにも人気がありました。「○○の森」と使われることが多く、なかでも「おはなしの森」(48)、「絵本の森」(18)が目立ちます。森の生態系の豊かさ、静けさ、探険や遊びの場としての魅力が、読書と通じるからでしょう。読書週間のシンボル「ふくろう」も森にたえずんでいるイメージですね。

2位は「虹」。「レインボー」とあわせると24となります。子どもの本実演グループのほか、読書支援グループにも人気です。子どもと本のかけはしになりたいという願いが込められている命名と思います。また、未来への希望、自由や多様性の象徴として、虹が用いられることも背景にありそうです。3位は「玉手箱」。おはなしや本を大事に入れて、子どもたちに届けるイメージでしょうか

4位は「おひさま」。次点の「ひだまり」や、21グループが使用の「ほかほか・ぼつかほか」もあり、実演や本を読む場所の心地よいあたたかさからの連想と、本という太陽を浴びてすくすく健康に過ごすほしい願いを感じます。

5位の「夢」は、「ドリーム」とあわせると95に。さらに、「夢○○」という名のグループもあわせると、110となります。

6位は「ママ」。「かあさん」(19)、「マザー」(13)ほか、お母さん全体は93です。学校図書館ボランティアの名前に多く見られます。今回の調査では「パパ」と「うさん」はあわせて5と、大差がつきました。次回調査でどれだけ差が縮まるか、注目です。

7位は「スマイル」。実演・文庫に加え、環境整備や連絡会の使用が目立ちます。たがいにっこりしながら連携の輪を広げていきたい思いがあるのでしょうか。日本語の「笑顔」は9でした。14位に「にこにこ」(29)も入っています。

8位は「なかよし」。子どもの本グループの文庫に多く使われています。子どもたちが集う場、文庫ならではの思いです。9位「わくわく」。擬音語で唯

一、ベスト10入りです。擬音語は子どもの本実演グループの名前に多く、そのほか人気の高かったのは、「にこにこ」「きらきら(きらきら星は除く)」「(29)」「よむよむ」(22)、「ころころ(どんぐりころころは除く)」「(18)」。読み聞かせ会場での子どもたちの様子が伝わってくるようです。

10位は「いずみ」。子どもの本、一般の本どちらにも人気です。読書により、好奇心や興味がこんこんと湧きだす、満たされる様子が泉と重なるのでしょう。

惜しくも12位(37)となつたのは「風」。でも、「そよかぜ」(30)、「しおかぜ」(6)など「風フアミリー」はあわせて94と大所帯です。圏外ですが、「そよかぜ」に加え、「さぎなみ」(20)、「せせらぎ」(19)は、一般の読書会に人気がありました。また、「円」や「水の輪」など、静かだけれども確実な広がりがイメージできることも見受けられ、1冊の本を中心に意見や感想がつきつき生まれる読書会にぴったりだと、感じました。

さて、集計をしていると、一般の読書会を中心に「きざらぎ」「やよい」など旧暦の月名も見受けられましたので、1月から順に調べ

てみました(「むつき」「さつき」などの使用理由には、月名以外の可能性もあります)。

- 「睦月」(1) / 「如月」(7)
- 「弥生」(6) / 「卯月」(1)
- 「皀月」(15) / 「水無月」(1)
- 「文月」(4) / 「葉月」(3)
- 「長月」(2) / 「神無月」(0)
- 「霜月」(0) / 「師走」(0)

なんと、「読書の秋」の中心、読書週間の開催時期である10月、11月が0!と、当協議会としてたいへんショックな結果となりました。暑い7月、8月でさえ、グループがあるのに……。7月は「文」の字が読書を連想させるのでしょうか? 次回の「全国読書グループ調査」にむけて、読書推進運動協議会では「神無月読書会」「霜月読書会」の設立を強く呼びかけたいと思います。

次回、いよいよ総合ベスト10の発表です!



■全国SLA オンラインプログラム配信

学校図書館をテーマとした各種研修講座の配信 はじまる

公益社団法人 全国学校図書館協議会(全国SLA)は、10月よりオンラインイベントプログラム「SLA情報局 online」をはじめた。

コロナ禍により、全国SLA主催の「全国学校図書館研究大会」「学校図書館実践講座」などがこごとく中止と、一堂に会しての研修会が行えないまま、ひとり職場になりがちな学校図書館担当者

に向けてプログラムを配信していく。10月10日の第1回目「学校教育に関わるすべての人に！みんなで学ぼう 学校教育と著作権」では、学校図書館における著作権の基本的な知識が解説された。

第2回目は「学校図書館セミナー2020」。第1部「GIGAスクール構想の推進による学びの充実を目指して」、第2部「G

I GAスクール構想の実現と学校図書館」を11月5日・6日に、図書館総合展の一部として開催した。

参加費は無料(通信費は参加者負担)だが、一度に視聴できる人数にかぎりがあるため、事前の申し込みが必要。プログラムは後日、アーカイブ録画で視聴できる。

全国SLAでは、第3回以降のプログラムも企画しており、内容が決まりしだい、Webサイトで紹介される。申し込み方法など詳細はWebサイトまで。

●全国SLA Webサイト
https://www.j-sla.or.jp/

バーチャルで古書店めぐり？掘り出しものにも期待

■神田古本まつりバーチャル開催

本の街・神保町(東京都千代田区)で10月末~11月頭に毎年開催される「神保町ブックフェスティバル」「東京名物 神田古本まつり」は、今年は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けて、残念ながら中止となった。

会場での販売はできないが、神田古本まつりは、今年から新たに「2020 神田古本まつり『バーチャル特選古書即売展』」をネット

ト上で展開している。

これは、古本まつりでも特に人気の高い、東京古書会館で開催される貴重古書の展示・販売会『特選古書即売展』に代わり、参加古書店が目録を特設サイトに公開し、古書を販売するもので、専門性が高い品揃えの15の古書店が参加。目録をゆつくりと見ながら、貴重資料を探すチャンスでもある。

サイトには、実際の会場ではな

かなか知りにくい各店舗の紹介なども掲載されているので、古書店めぐりの気分も味わえる。また、公式Twitter、YouTubeも用意されていて、各店舗のおすすめ本や最新情報が随時更新される。

●2020 神田古本まつり
「バーチャル特選古書即売展」
関連URL
・サイト
https://tokusen-kosho.jp/
・Twitter
https://twitter.com/
RarebooksKanda
・YouTube
https://bit.ly/2S8Ht57

事務局報告(10月)

☆1日＝野間読書推進賞贈呈式」について文部科学省総合教育政策局に祝辞依頼
・2日＝上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会出席
☆5日＝第74回 読書週間」事業について日本図書及株式会社と打ち合わせ
☆6日＝機関紙「読書推進運動」635号別冊 入稿
☆7日＝機関紙「読書推進運動」635号別冊 書了
☆8日＝野間読書推進賞贈呈式」について出版クラブと打ち合わせ
☆8日＝機関紙「読書推進運動」635号入稿
☆12日＝機関紙「読書推進運動」635号書了

☆15日＝機関紙「読書推進運動」635号別冊 出来
☆15日＝野間読書推進賞 要項 入稿
・19日＝上野の森親子ブックフェスタ」運営委員会出席
☆20日＝野間読書推進賞 要項 書了
・21日＝よたかずひこさんより「子ども読書の日ポスター」イラストラフ受け取り
☆22日＝野間読書推進賞要項 出来
☆23日＝若い人に贈る読書のすすめ 書目投票を集計・確認のち、選定結果を各委員へ通知
☆26日＝2020年度 第3回 常務理事会 開催
☆27日～11月9日＝2020年 第74回 読書週間

編集部 & 事務局のひとこと

●最近、オンラインでの講演会や研究会への参加が続いています。オンラインとはなく、録画配信ですと「あ、いま聞き損なっちゃった」「メモ取る前にスライドが進んじゃった」場合は、一時停止→ちょっと巻き戻して、じっくり聴講できる利点もあります。適度な休憩やチャット機能をつかった質疑応答など、主催者側の工夫も充分感じられ、これはこれでよいかもと思いつつ、毎回「やっぱり、会場で聞きたかったな」という感想になります。

●たとえば、先月ご紹介した赤羽茂乃さんの講演会「かさじぞう」の解説で、一場面ずつに込められた赤羽末吉さんの思いや工夫が紹介されるたび、私はひとり、パソコンの前で「おおー」「あ、ほんとだ」とつぶやいていました。リアルな会場でならば、きつと会場中に、参加者たちの声にならない驚きや感動が広がっていたはずですが、そのあたったかい空気がないのがさびしいのです。
●今年の野間読書推進賞贈呈式を前に、これまでの受賞者の方々からメッセージと近況報告をいただいたまま、手探りで活動を再開した方、活動自粛で実演活動が自分にとってどれだけ大きなものであったか再認識された方、久しぶりのおはなし会での子どもたちの歓迎に胸を打たれた方……。いまだ着る範囲で、読書会を開く楽しさ、子どもたちや読書支援を必要とする方たちと本を共有する責任と喜びが伝わってきました。来月号でご紹介いたします。(伸)